

共同購買、人材育成など課題解決へ

初代理事長に藤本氏(NICHUIN)

東北トラスティア協組

正会員134社 仙台市で設立総会

東北6県の地域建設会社134社を正会員とする東北トラスティア事業協同組合が設立され26日、仙台市のSORANOWAで発足総会を開いた。理事長には青森市に本社を置くNICHUINの藤本宏涼代表取締役が就任した。正会員は、東北6県の有力ゼネコン7社とみずほ銀行による共同出資で昨年6月に設立された東北アライアンス建設(福島県郡山市 陰山正弘代表取締役社長、以下TAC)の協力企業を中心に、理念に賛同する企業が参画した。建設業の新たなスタンダードモデルである「並列型パートナーシップモデル」の一翼を担い、共同購買による競争力強化や人材育成など建設業の課題へ取り組みを進める。

東北トラスティア事業協同組合は、東日本大震災と福島第一原発事故からの復興除染事業を手掛け地域再生に取り組んできた福島県

住環境復興事業協同組合が母体となる。初代理事長には陰山建設の陰山正弘代表取締役が務め、同社の協力会社を中心に構成され、こ

れまで福島県の復興事業を担ってきた。地域再生という住環境組合の理念を引き継ぎ、東北全域に発展拡大させる。「競争から共創へ、そして「協奏へ」をテーマに、建設業の新しい経営モデルの実現を目指す。

同組合が目指す「並列型パートナーシップモデル」は、TACと、TACがパー

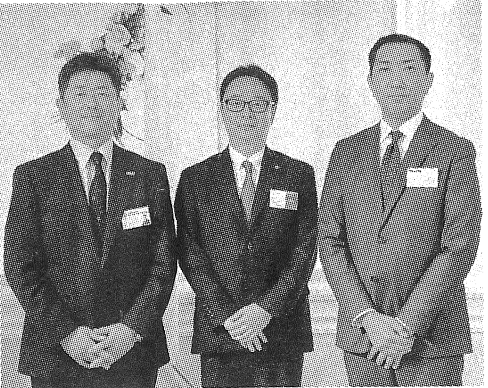
トナーシップ協定を締結した▽アイリスオーヤマ(仙台市)▽フルテック(札幌市)▽EARTHBRAIN(東京都港区)▽小松製作所(同)▽みずほリース(同)▽メタルワン(東京都千代田区)の6社と連携し、それぞれ独立した主体として、上下関係や従属関係に依らない協力関係を築く。3者それぞれの視点を融合することで、建設現場の変革と事業構造の高度化を同時に推進し、従来の元請・下請の受発注関係に基づく垂直型建設モデルからの脱却を図り、建設現場に新たな価値を創出する。主な取り組みとして▽共同購買による競争力強化▽人材育成および人材交流

の促進▽DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進▽広域での災害対応体制の構築▽そのほか地域また組合員の課題の解決に資する事業の創出を進める。

藤本理事長は「トラスティアは、信頼に由来されており、発注者、元請け、協力会社、地域社会との信頼の連鎖を重視する姿勢が込められている。アライア

ンス建設が東北の広域建設を担い、トラスティアが現場を支える協力会社の力をつなぐ、従来の縦の連なる直線的な関係ではなく、横並びのパートナーの関係を目指している。本日を新しい出発点とし、東北の建設業の未来を皆さまで共に作ってまいりたい」と意気込んだ。

TACの陰山社長は「建設業は、まだまだポテンシャルがあつて、革新的な発展ができる産業だと思つている。地場の企業と一体となつて手を組むことによつて災害時の対応の幅なども大きくなるなどさまざまな相乗効果が生まれてくる。そのためにも平常時から元請け、協力企業の垣根を超えて、同じ視点で協力し合つて、さらなる建設業界の発展を目指していきたい」と話した。



左から母体となる福島県住環境復興事業協同組合で理事長を務めた佐藤隆氏(郡山塗装・代表取締役)、TACの陰山社長、東北トラスティア事業協同組合の藤本理事長

建設新聞
2026/5/28